

Strix 11 : 345-347 (1992)

テレビアンテナに営巣したササゴイ

小林繁樹¹・弘中 毅²

はじめに

ササゴイ *Butorides striatus* は北はアムール、東はインドまでのアジア大陸の東南部、アジアの熱帯および亜熱帯の島、オーストラリア、インド洋の島、マダガスカル、サハラより南のアフリカ、中央アメリカおよび南アメリカに分布し、北部のものは冬季、南に渡る（高野 1981）。日本では夏鳥で本州、四国、九州で繁殖する（日本鳥学会 1974）。繁殖は単独または5～8巣ぐらいの集団で行ない、スギ、クロマツ、イチヨウなどの地上5～10mの高さの樹上に、樹枝を主材として粗雑な皿型の巣をつくる（清根 1978）。

このようにササゴイは通常、樹木に営巣するが、今回筆者らはテレビアンテナでの営巣を山口県で確認した。野鳥が人工構造物に営巣することは、浜口ほか（1978）がキジバト、カワラヒワ、イソヒヨドリ の3種、二村ほか（1979）がブッポウソウ、アカハラ の2種、根津ほか（1979）がイワツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、キジバト、オナガ の6種、小林（1990）がフクロウ、ハクセキレイ、カワガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト など20種について報告している。しかし、いままで報告された鳥はハト目、フクロウ目、ブッポウソウ目、スズメ目の鳥であり、ササゴイが含まれるサギ類については知られていない。本報では、テレビアンテナでの営巣例を、確認初日から巣立ちまでの数日間について報告する。

本報を作成するにあたり、林惇氏にはササゴイの観察記録を、藤島敏夫氏には昨年までのササゴイの繁殖状況についてご教示いただいた。また、日本野鳥の会研究センター所長の樋口広芳博士に校閲いただいた。これらの方々には厚くお礼申しあげたい。

営巣場所と周辺環境

今回、観察した営巣地は、山口県玖珂郡周東町下久原の村上隆弘氏宅のテレビアンテナである。ササゴイの巣が見つかった民家は高森商店街の一角にあり、家屋が密集している。各民家には庭木は植えられているものの、営巣に適した高木は周囲にはみあたらなかった。周辺の環境は営巣地から500m離れた所を島田川が流れ、その両岸は水田が広がる典型的な農村地帯である。島田川は川幅100mで、1991年7月15日の1kmのセンサスでは、早瀬でオイカワ、ウグイなどの小魚をねらう成鳥5羽、幼鳥1羽を観察しており、好適な採食場所となっていることがうかがえた。巣は村上氏宅の2階屋根上に設置された地上7mのテレビアンテナ上にあり（図1）、横T字型の端のアンテナ案子が密になった部分に作られている。直径が30cmほどの皿型で、巣材はカキの木と思われる小枝を主材とし、ヒナたちが巣から出ると空が透けてみえるほど粗雑であった。

1992年7月23日受理

- 〒745 山口県徳山市栗屋坂田 948-24
- 〒741 山口県岩国市錦見 6丁目 12-1

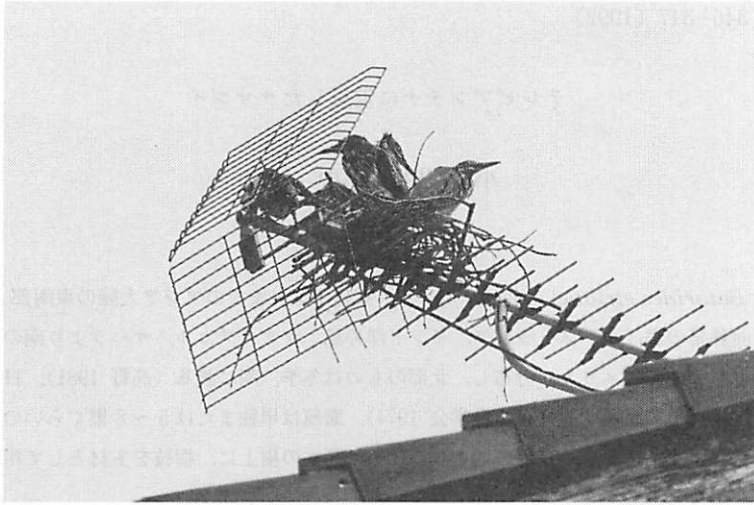


図1. テレビアンテナに営巣したササゴイ.

Fig. 1. Green-backed Heron's *Butorides striatus* nest on TV-antenna.

観察状況

観察記録は、筆者らのもののほかに、1991年6月15～20日および、7月19日～25日については聞き取り調査にもとづくもので、巣より80mくらい北西にあるガソリンスタンド経営の林惇氏によるものである。ガソリンスタンドからは屋根のあいだからちょうど巣がみえ、観察するのに適していた。

6月15日～20日 すでにヒナはふ化していたが、ひとかたまりの団子状で、何羽かは確認できなかった。親鳥はまずアンテナの東端（巣の反対側）にとまり、その後巣の方へ近寄っていきヒナに給餌していた。

7月12日 ヒナはかなり大きく成長し、はばいたり立ちあがるものもみえた。親鳥が隣のテレビアンテナに飛来したが、巣にはいかず給餌は観察できなかった。

7月13日 ヒナは昨日とほぼ同じ状況。親鳥が隣のテレビアンテナに飛来したので20分くらい待ったが、給餌はみられなかった。親鳥はそのまじっとアンテナにとまっていた。

7月15日 ヒナは親鳥とほぼ同程度の大きさに成長しているが、個体間に若干の差がみられる。給餌に訪れた親鳥が隣接した民家のテレビアンテナや電線にとまると、ヒナたちは巣から身を乗り出すものもあり、親鳥が巣のあるアンテナに飛来すると、待ちきれず、巧みにアンテナの素子づたいに親鳥の方へ移動して食物をもらった。給餌は、鳴きさわぐヒナの催促に応じて親鳥が餌を吐き出す方式で行なわれていた。この時ヒナの数か6羽であることがわかった。

7月17日 ヒナはかなり大きくなり、立ちあがって、さかんに羽ばたきを行なっている。巣立ちが近いものと思われた。

7月19日 2羽のヒナが巣立ちし、屋根の上にいた。親鳥はこの2羽や巣に残ったヒナにさかんに給餌を行なった。

7月22日 発育の遅れた1羽を残してあとは巣立つ。ただし、どこに行ったかはわからない。残った1羽に給餌する姿がみえた。

7月25日 巣に残りの1羽の姿もみえない。全部巣立ったものと思われる。

考察

今回観察したササゴイが本来の営巣環境からかけ離れたテレビアンテナという人工構造物に営巣した理由としては、営巣地の隣家の藤島敏夫氏によると、一昨年まで、今回観察を行なった営巣地から約15mほど離れたイチョウの木で1つがいのササゴイが毎年営巣していた。そのイチョウの木が、周辺の道路の取り付け工事のために根元から切り倒された（切株の直径約1m）。それまでこのイチョウの木で営巣していたつがいが、営巣木を失い、近くに適当な代替木がなかったため、テレビアンテナを利用したものと思われる。

このようにササゴイの営巣地への執着性、環境変化に対する適応力の高さから、開発などの理由で営巣木が伐採され失われた場合、代替の電柱などの上部に巣台を置いたものを準備すれば継続した利用の可能性を示唆しているものとする。

引用文献

- 浜口哲一・熊本征平. 1978. 競輪場の建物に巣を作った鳥. 野鳥 43 (12) : 41-42.
 消棲幸保. 1978. 日本鳥類図鑑Ⅲ. 講談社, 東京.
 小林繁樹. 1990. 山口県, 福岡県, 島根県で記録された人工構造物に営巣する野鳥. 山口県版鳥類繁殖地図調査報告書, pp. 327-332. 日本野鳥の会山口県支部
 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録. 学習研究社, 東京.
 二村一男・森口道夫. 1979. 人工構造物に営巣する野鳥 (1). 野鳥 44 (3) : 45.
 根津和育・藤田和・吉村正則・馬場章一. 1979. 人工構造物に営巣する野鳥 (2). 野鳥44 (5) : 43-44.
 高野伸二. 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京.

Nesting by the Green-backed Heron *Butorides striatus* on a TV-antenna

Shigeki Kobayashi¹ and Tuyoshi Hironaka²

We found a nest of the Green-backed heron *Butorides striatus* on a TV-antenna in Yamaguchi Prefecture in July 1991. Six nestlings were in the nest. They left the nest from July 19 to July 25. This is the first record of a Heron species nesting on a TV-antenna in Japan.

1. 948-24 Kuriyasakata, Tokuyama-shi, Yamaguchi 745
2. 6-12-1 Nishikimi, Iwakuni-shi, Yamaguchi 741